

問1 平安時代中期、宮廷に仕えた女性である紫式部によって執筆された、貴族社会を舞台とする世界的に有名な長編小説は何か、名称を答えなさい。
(2024年 千葉県公立入試 類似)

1. 徒然草 2. 枕草子 3. 源氏物語 4. 古事記

問2 11世紀の前半、藤原道長やその子の頼通の時期に全盛期を迎えた「摂関政治」の仕組みについて、最も適切な説明を選んでください。
(2024年 大阪府公立入試 類似)

1. 天皇の母方の親戚にあたる藤原氏が、摂政や関白の職を独占して政治を行った。
2. 位を退いた上皇が、天皇に代わって院庁で政治の実権を握った。
3. 有力な武士団が天皇の護衛として朝廷に入り、政治の役職を占めた。
4. 地方の豪族が国司を追い出し、独自の領地を支配して朝廷に対抗した。

問3 平安時代末期、白河上皇の邸宅跡からは当時の高度な文化を示す青磁などが発掘されています。このように、天皇が位を譲った後も「上皇」として自らの居所で政治の実権を握り、天皇に代わって政治を執り行う形態を何と呼びますか。
(2024年 栃木県公立入試 類似)

1. 武家政治 2. 合議制 3. 院政 4. 摂関政治

問4 8世紀から9世紀にかけての日本および世界の情勢に関する記述として、最も適切なものを選びなさい。
(2016年 大分県公立入試 類似)

1. 日本では墾田永年私財法によって土地の私有が認められるようになり、その後平安京への遷都を経て、大陸の情勢変化を受け遣唐使が廃止された。
2. 新羅が朝鮮半島を統一したのと同時期に、日本にはじめて稲作が伝来し、その記念として遣唐使の派遣が始まった。
3. フランス革命や産業革命などの資本主義の動きが活発化した時期に、日本では平安京の建設が行われ、遣唐使が盛んに派遣された。
4. 卑弥呼が中国の魏に使いを送った時期と同時期に、イスラム教が成立し、それを受けて日本は平安京への遷都を決定した。

問5 8世紀末、奈良の平城京で強大になった仏教勢力の影響を断ち切り、天皇を中心とする政治を立て直すために、都を現在の京都市にあたる平安京へと移した人物は誰ですか。
(2025年 和歌山県公立入試 類似)

1. 白河上皇 2. 推古天皇 3. 桓武天皇 4. 聖武天皇

問6 平安時代末期、地方における武士の台頭や浄土信仰の広がりを背景に、東北地方の平泉で独自の文化が栄えました。この文化において、奥州藤原氏が極楽浄土の様子を地上に再現しようとして建立した建築物を選びなさい。
(2023年 大阪府公立入試 類似)

1. 唐招提寺金堂 2. 中尊寺金色堂 3. 東大寺大仏殿 4. 平等院鳳凰堂

問7 平安時代の中期、遣唐使の廃止などを背景に、日本の風土や生活に合わせた「国風文化」が生まれました。この時代に、漢字を簡略化したり一部を用いたりして考案された、日本語の音を表記するための文字を何といいますか。
(2016年 京都府公立入試 類似)

1. 甲骨文字 2. 梵字 3. かな文字 4. 万葉仮名

問8 平安時代の文化は、時期によって異なる特色が見られます。最澄による天台宗の開教、かな文字の発達に象徴される国風文化の隆盛、奥州藤原氏による中尊寺金色堂の建立という3つの事象を、起こった時期の古い順（初期・中期・末期）に並べた組み合わせとして正しいものを選びなさい。
(2023年 大阪府公立入試 類似)

1. 中尊寺金色堂の建立 → 国風文化の隆盛 → 天台宗の開教
2. 天台宗の開教 → 中尊寺金色堂の建立 → 国風文化の隆盛
3. 国風文化の隆盛 → 天台宗の開教 → 中尊寺金色堂の建立
4. 天台宗の開教 → 国風文化の隆盛 → 中尊寺金色堂の建立

問9 平安時代の中期に藤原道長や藤原頼通が全盛期を築いた、摂政や関白による政治の仕組みに関する説明として、最も適切なものはどれか。
(2023年 岩手県公立入試 類似)

1. 退位した天皇が、新しい天皇の後見人として政治を動かす仕組みを作った。
2. 武士の力を背景に、地方の荘園の管理を徹底することで勢力を伸ばした。
3. 天皇の母方の祖父などの立場で、政治の重要な決定権を独占した。
4. 律令に基づき、天皇が自ら直接的に全国の民衆を支配する仕組みを強化した。

問10 平安時代中期の「国風文化」において、日本の気候や風土に合わせて発展した建築様式の説明として、最も適切なものを選びなさい。
(2025年 滋賀県公立入試 類似)

1. 中心の建物から廊下を伸ばし、庭園の池を見渡せる開放的なつくり
2. 急な傾斜の屋根を持ち、屋根裏で養蚕を行うことができる山間部のつくり
3. 畳を敷き詰め、障子やふすまで部屋を細かく仕切った実用的なつくり
4. 外敵の侵入を防ぐために石垣や堀をめぐらせ、壁を厚くした堅牢なつくり

問11 平安時代中期に貴族の間で発達した「国風文化」における生活様式の変化について、建築と衣服の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。
(2016年 秋田県公立入試 類似)

1. 建築では仏教儀式を独占するための寺院建築のみが発達し、衣服では庶民と同じ麻布の着物が推奨された。
2. 建築では大陸の様式をそのまま取り入れた壮大な石造建築が、衣服では活動的な胡服が主流となった。
3. 建築では日本特有の寝殿造が、衣服では男性の正装である束帯や女性の十二単などが用いられるようになった。
4. 建築では禅宗の影響を受けた書院造が、衣服では武士の礼装である直垂や素襖が一般的となった。

問12 794年に桓武天皇によって平安京が造営されてから約400年間続いた時代において、優れた学識を持ち、のちに山口県の防府天満宮などで「学問の神様」として祀られるようになった人物は誰ですか。
(2023年 鳥取県公立入試 類似)

1. 足利義満 2. 聖徳太子 3. 菅原道真 4. 藤原道長

問13 平安時代中期、社会への不安や「仏教の教えが正しく伝わらなくなる時期が来る」という末法思想が広まるなかで、阿弥陀如来にすがって「南無阿弥陀仏」と唱えることにより、死後に苦しみのない世界へ生まれ変われることを願う信仰が流行しました。この信仰の名称として正しいものを、次の選択肢から選びなさい。
(2022年 新潟県公立入試 類似)

1. 阿弥陀如来の力によって極楽浄土への往生を願う浄土信仰
2. 厳しい修行や座禅を通じて自らの力で悟りを開こうとする禅宗
3. 聖武天皇の時代に国家の平穩を祈って各地に建立された国分寺の信仰
4. 空海が中国から伝え、山の中での修行を重視した真言宗

答え合わせ・解説

問1	答え 3 源氏物語	紫式部が執筆した『源氏物語』は、当時の華やかな貴族社会の生活や感情をいきいきと描いた長編小説である。同じ平安時代中期の作品でも、清少納言による『枕草子』は随筆に分類される。また、『徒然草』は鎌倉時代の随筆であり、『古事記』は奈良時代に編纂された歴史書であるため、時代やジャンルが異なる。
問2	答え 1 天皇の母方の親戚にあたる藤原氏が、摂政や関白の職を独占して政治を行った。	摂関政治は、藤原氏が天皇の「外祖父（母方の祖父）」などの立場を利用して、摂政・関白という要職を独占したことが特徴です。退位した上皇が政治を行うのは後の時代の「院政」であり、武士が実権を握る「武家政治」とは明確に区別されます。
問3	答え 3 院政	11世紀後半に白河上皇が始めた政治形態です。藤原氏が天皇の外戚（母方の親戚）として権力を持っていた摂関政治を抑え、皇室が政治の主導権を取り戻すために行われました。天皇が位を譲り、上皇となった後も「院庁」という独自の役所を置いて実権を振るいました。
問4	答え 1 日本では墾田永年私財法によって土地の私有が認められるようになり、その後平安京への遷都を経て、大陸の情勢変化を受け遣唐使が廃止された。	8世紀の奈良時代には墾田永年私財法によって私有地である「荘園」が生まれるきっかけが作られました。その後、794年に平安京へ都が移り、9世紀末の894年には、唐の衰退や日本独自の文化の発展（国風文化）を背景として遣唐使が廃止されました。フランス革命や資本主義の台頭は18世紀以降の近代の出来事であり、古代の日本史とは時期が大きく異なります。
問5	答え 3 桓武天皇	奈良時代末期の政治の乱れを正すため、都を長岡京、次いで794年に平安京へと移しました。これにより、1000年以上にわたる京都を首都とする時代が始まりました。選択肢にある聖武天皇は奈良時代の平城京での大仏造立、白河上皇は平安時代後期の院政、推古天皇は飛鳥時代の政治家です。
問6	答え 2 中尊寺金色堂	平安時代末期、東北地方を支配した奥州藤原氏は、平泉を拠点に100年におよぶ繁栄を築きました。三代（清衡・基衡・秀衡）の遺体が安置されている中尊寺金色堂は、金箔や螺鈿細工を用いた豪華な建築で、当時の高度な工芸技術と阿弥陀仏への信仰を象徴しています。なお、平等院鳳凰堂は平安時代中期の藤原頼通による建築です。
問7	答え 3 かな文字	平安時代、これまでの中国文化を十分に吸収した上で、日本独自の文化である国風文化が成立しました。漢字を崩して書いた「ひらがな」や、漢字の一部をとった「カタカナ」からなる「かな文字」が使われるようになったことで、日本人の繊細な感情や生活の様子を表現できるようになりました。
問8	答え 4 天台宗の開教 → 国風文化の隆盛 → 中尊寺金色堂の建立	平安時代初期には、最澄が天台宗を、空海が真言宗を伝え、密教が広まりました。中期には、遣唐使の廃止などを背景に日本の風土や生活に合わせた国風文化が栄え、かな文字によって『源氏物語』などの文学が生まれました。末期には、東北地方の平泉を拠点とした奥州藤原氏が、中尊寺金色堂に代表される独自の平泉文化を形成しました。
問9	答え 3 天皇の母方の祖父などの立場で、政治の重要な決定権を独占した。	摂関政治の本質は、藤原氏が天皇と血縁関係（特に外祖父の関係）を結ぶことにありました。これにより、天皇の名代として振る舞う「摂政」や、成人後の天皇を補佐する「関白」の地位を世襲的に独占し、政治の実権を維持しました。
問10	答え 1 中心の建物から廊下を伸ばし、庭園の池を見渡せる開放的なつくり	遣唐使の廃止によって日本の独自の文化である「国風文化」が発達しました。寝殿造は、壁が少なく御簾（みす）や屏風で空間を仕切る開放的な構造が特徴です。これは、日本の夏の蒸し暑さをしのぐための工夫でもありました。他の選択肢にある「畳を敷き詰め、障子やふすまで仕切る」形式は、のちの書院造の特徴です。
問11	答え 3 建築では日本特有の寝殿造が、衣服では男性の正装である束帯や女性の十二単などが用いられるようになった。	国風文化の時代、生活のあらゆる面で日本風の形式が整えられました。建築様式では、風通しを考慮した「寝殿造（しんでんづくり）」が貴族の住宅として定着し、衣服においても、日本の気候に合わせて重ね着をする「束帯（そくたい）」や「十二単（じゅうにひとえ）」といった貴族独自の装束が完成しました。これらは、中国の模倣ではなく日本の生活環境に適応させた結果です。
問12	答え 3 菅原道真	平安時代に貴族・学者として活躍した菅原道真は、宇多天皇に重用されて右大臣にまで昇進しました。彼の死後、その優れた才能を称えて「天神様（学問の神様）」として信仰されるようになり、防府天満宮をはじめとする各地の天満宮に祀られています。
問13	答え 1 阿弥陀如来の力によって極楽浄土への往生を願う浄土信仰	平安時代中期から後期にかけて、戦乱や飢饉などの社会不安を背景に、現世の苦しみから救われ、死後に「極楽浄土」へ生まれ変わることを切望する浄土信仰が急速に広まりました。これは「南無阿弥陀仏」と唱える「念仏」という簡潔な教えであったため、貴族から民衆まで広く受け入れられることとなりました。選択肢にある禅宗は鎌倉時代に武士の間で流行したものであり、国分寺建立は奈良時代の出来事です。